

施策 No.	政策名	子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり	主管課	社会福祉課	主管課長名	塩沢 智裕
1-4	施策名	地域福祉の推進	関係課	児童福祉課、健康推進課、高齢福祉課、介護保険課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
	市民	①桜川市人口	見込値	人		37,653	37,269	36,885	36,500	35,897
実績値						37,653				
見込値										
					実績値					
見込値										
					実績値					
施策の意図		成果指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
地域で互いに支えあう意識が高まり、積極的に福祉活動に参加している。		①地域福祉活動を行っている市民の割合	%		目標値	28.0	28.5	29.0	29.5	30.0
					実績値	20.2				
		②高齢者見守りネットワーク事業所登録件数	件		目標値	117.0	117.0	118.0	118.0	120.0
					実績値	117.0				
		③社会福祉協議会にボランティア登録をしている人の数	人		目標値	580.0	580.0	580.0	580.0	580.0
	実績値				568.0					
	成果指標設定の考え方	○地域で支え合いの意識を高め、福祉活動を実践することによって、アンケートによる①地域福祉活動を行っている市民の割合、②高齢者見守りネットワーク事業所登録件数③社会福祉協議会にボランティア登録している人数								
	成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①地域福祉活動を行っている市民の割合は、市民アンケート「継続的に行う」、「たまに行っている」より求める。②高齢者見守りネットワーク事業所登録件数は、高齢福祉課で管理する高齢者見守りネットワーク事業所登録数より求める。③社会福祉協議会にボランティア登録をしている人の数は、社会福祉協議会にボランティア保険に加入するために登録をしている人の数より求める。								

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)			
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	○地域福祉活動を行っている市民の割合(「継続して行っている」「たまに行っている」)は、前年度18.6%であり、令和4年度については20.2%と増加している。「あまり行っていない」「行ったことはない」と回答した市民の割合は、令和3年度は77.5%、令和4年度は75.6%と減少している。 ○高齢者見守りネットワーク事業所登録件数は、令和3年度114件、令和4年度117件と増加している。 ○社会福祉協議会にボランティア登録をしている人の数は、令和3年度は539人、令和4年度は568人と増加している。 ○社会福祉協議会ボランティア登録数、地域活動を行っている市民の割合、高齢者見守りネットワーク事業の登録件数はともに増加傾向にあるため成果向上と判断した。		
2) 成果目標の達成状況			
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景・要因	○地域福祉活動を行っている市民の割合は、令和4年度は目標値28.0%に対して実績値20.2%と下回った。 ○高齢者見守りネットワーク事業は、市内の事業所とほぼ協定を結んでおり、今後は新たな事業所に協力を求めていく方向である。 ○社会福祉協議会にボランティア登録をしている人の数は、令和4年度は目標値580人に対して実績値568人と下回った。 ○前年比については向上したが、活動・ボランティアなどを行っている方の高齢化、コロナウイルス感染症による活動の制限などもあり、目標値は下回ったものがある。		

3. 施策の成果実績に対する総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対する総括	今後の課題・方針
施策の目指す姿の実現に向けた取り組みの中で、以下の事業が大きく貢献したと考える。 民生委員児童委員協議会助成事業においては、地域社会の福祉増進を目的とした活動の中で、高齢者に関すること、障がい者に関すること、子どもに関すること、生活困窮者等に関することなどの相談及び支援を行った。岩瀬地区44名・大和地区16名・真壁地区40名計100名による訪問活動、見守り活動をしている。 なお、令和4年度に一次改選があり、58名の新任委員が委嘱された。 避難行動支援者台帳について、民生委員の協力のもと新規対象者の登録や更新を行い、災害時に備えている。	民生委員児童委員協議会においては、令和5年度からは感染症法上の5類引下げに伴い、県の研修への参加や単位民児協での全体研修などを積極的に開催することを検討している。 一次改選により委嘱された新任委員も含め、委員に対し事務局としても支援サポートを行ない、活動しやすい環境づくりをする必要がある。 さらに、市民に対しても民生委員活動について周知をおこない、地域福祉ボランティアについての理解を促進し、ボランティアに対する意識を醸成する一助となる活動を行う。 避難行動支援者台帳とあわせ、個別避難行動計画について、民生委員等関係機関への協力の依頼、対象者のピックアップ等、個別の避難計画の素案作成などの準備検討が必要と思われる。